令和３年度

令和３年10月29日

ねぎしようちえんだより　11月号

異年齢の交流を通して

園長　大　村　弘　子

落ち葉が風に舞うようになり、秋の深まりを感じます。コロナの感染者数は減少してきましたが、引き続き感染対策を徹底しながら、教育活動を充実させていきたいと思います。

さて、年長ぞう組は運動会で「ドンパチ・キラキラ花火」と「お花花火」を表現しました。それぞれグループの友達と名前を考え、音楽に合わせて動きを相談し、作り上げたものです。憧れの気持ちを抱いていたうさぎ組が「花火やってみたい」と話すと、ぞう組は「いいよ」と快く応じてくれました。

「ドンパチ・キラキラ花火」では、キラキラに装飾した傘を用いて表現します。ぞう組は「〇〇ちゃん、こっち向きで、こういうふうに（片膝をついて）座って」と見本を見せて優しく教えています。うさぎ組はうなずき、ぞう組の話をよく聞いて動いています。ぞう組が一つ一つの動きをやって見せながら「こうやって上にあげて（傘を）開くんだよ」などと、丁寧に分かりやすく教える姿に感動しました。

「じゃ音楽かけてやってみよう」ぞう組とうさぎ組の混合チームでの「ドンパチ・キラキラ花火」です。ぞう組は一緒にやっているうさぎ組を気にかけ、順番に傘を開くところでは、〝大丈夫かな〟という温かな表情でうさぎ組の様子を見ていました。表現が終わると「上手にできたよ」とほめていました。うさぎ組はちょっと緊張しながらも「もう１回やりたい」と楽しそうでした。

何回か繰り返すうちに、メンバーが足りなくなったので、私も仲間に入りぞう組に教えてもらいました。ところが、最後のところで、傘を開くタイミングが少しずれてしまいました。すると「ちょっと遅れてたね。もう少し修業が必要だね」「ここ（傘のボタン）をさっと押すんだよ」「1・2・3・4って数えて。この向きで(傘を)開くんだよ。」と温かくも厳しい言葉が返ってきました。

一緒にやってみて、ぞう組が、よりかっこいい動きにしようとタイミングや向きなど細かなところまでこだわって表現していたことがよく分かりました。また、年下のうさぎ組に対しては多少の遅れや違いは大目に見て、大人に対してはきちんと知らせる。つまり、相手のことを考えて対応しているということを実感しました。これは人との関わりのとても大切な力だと思います。異年齢の子供たちや大人など多様な立場の人の思いを受け止め相手に応じて関わっていくことは、多様性を尊重することにもつながるのではないでしょうか。

幼稚園の行事は、当日だけではなく、行事の前、行事の後の生活や遊びにつなげていくことで、豊かな経験となります。うさぎ組はぞう組との関わりを経験し、今度は自分たちが運動会で踊ったリズムを年少ことり組に優しく教えていました。〝教えてもらってうれしい、ありがとう〟という気持ち、〝教えてあげて、相手が喜んでくれた、自分が役に立った〟というううれしさ、どちらも温かな心の栄養になります。異年齢の交流だけでなく、園の至るところで、このような関わりができるようにしていきたいと思っています。